



おきらくごは、落語家の月亭方氣氏から指導を受けているそうです。

気楽に楽しめる落語イベント

おきらくごの会

2月15日(土)、津幡町を中心に活動するアマチュア落語家集団「おきらくご」の落語を楽しむイベントが郷土資料館NoNoで開催されました。今回は、おきらくごの4人が古典落語『たらちね』や、立川志の輔氏の新作落語『親の顔』など4つの演目を披露。落語の後はおきらくごによる大喜利が始まり、野々市市にちなんだあいうえお作文や野々市生まれの純米酒「猩々」の謎かけが披露されました。来場者も一体となって盛り上がり、会場は笑い声に包まれていました。

学んで笑って今日も生き生き

いきいきゼミナール「健康講座＆マジックショー」

2月18日(火)、押野公民館で健康講座＆マジックショーが開催され、押野地区住民34人が参加しました。

前半は、おりた内科クリニック管理栄養士の綾部真由子氏が、健康的な食事や運動について講演を実施。具体的なレシピや運動など、生き生きとした生活を送るための知識を学びました。後半は“マジシャンルパン”こと高田隆二氏によるマジックショー。軽妙なトークとともにさまざまな手品が披露され、会場からは歓声や大きな笑い声が上がっていました。



「笑顔泥棒」ルパンと一緒にたくさん笑って免疫アップ！



「こうやって作るんだ」「良い焼き色！」と楽しげな声が聞かれます。

被災した心と体をみんなで癒そう のとほっこり時間

東日本大震災後に福島の子どもたちを石川県に招き、心身のリフレッシュをしてもらおうと設立された“ふくしまっ子チャレンジスクール”が3月2日(日)、「のとほっこり時間」を開催しました。令和6年能登半島地震で被災した15家族36人の参加者に加え、大学生18人・大人12人のスタッフがにぎわいの里のいちカミーノに集合。ナン作りで協力して料理を楽しんだ後、レクリエーション・親子ヨガも行われ、参加者の心と体をほぐす“ほっこり時間”となったようでした。

思い出を胸に 新たな旅立ち

市内小中学校 卒業式

3月14日(金)に中学校で、18日(火)に小学校でそれぞれ卒業式が挙行され、中学生531人と小学生579人が学び舎を巣立ちました。野々市中学校では、瀬川俊夫校長が「卒業してからもすてきな笑顔、きれいな環境作り、人ととの支え合いを大事に成長していってほしい」と式辞を述べ、卒業生代表の岡本唯菜さんは「これから私たちはそれが決めた道を歩んでいきます。その中で挫折することがあるかもしれません、後悔のないよう自分を信じて突き進んでいきます」と答えました。



1人ずつ名前を呼ばれ、卒業証書を受け取る生徒たち。

Fまちの話題 FOCUS

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 (☎ 227-6056)

かがやき無限大 ともに育む 椿の和 花と緑 のいち 椿まつり 2025

3月15日(土)、16日(日)に「花と緑 のいち 椿まつり 2025」が行われました。34回目の開催となる今年は、メイン会場を野々市中央公園隣接の市民体育館に据えて初開催。県内4つの高校の生徒がそれぞれ書道パフォーマンスを披露したほか、アートコンテンツを部屋全体に投影して没入感を楽しむことができる「ののいち22世紀デジタル美術館」など初めてのイベントが目白押しでした。

市民体育館では、ツバキの花を間近に鑑賞できる「椿展」やツバキを題材とした絵・写真・短歌などの作品コーナー、100種類以上のツバキが描かれた絵巻物『百椿図』の再現展のほか、手打ちそばや塩ちゃんこが味わえるつばき食堂などが設けられ、来場者はさまざまなツバキを楽しんでいるようでした。両日開催された「ののいち椿館ガイドツアー」では、椿館から椿山までの間にあるツバキを鑑賞しながらガイドの解説を聞くことができ、「知らなかった」「つばき油はそうやってできるんだ」とツバキの知識を深めています。

2日間で延べ5,033人が訪れた椿まつり。野々市の春の風物詩は今年も大盛況で幕を下ろしました。



笑顔とツバキの花が咲き誇ります。



気迫あふれる書道パフォーマンス (明倫高校藝術部・書道)



豊かな感性で花を生けました (明倫高校華道部)。



野々市太鼓 組の勇壮な演奏で椿まつりが開幕。

コーヒーの振る舞いで
体も心も温まります。

ツバキの絵を鑑賞できます。



茶席 (煎茶) でほっこり一息。

ツバキへの知識欲を満たしてくれる椿館ガイドツアー。